

## 概要

- 令和5年に県西部地区の南部町でイネカメムシが多発し、中生の主食用米や飼料用米を中心に不稔粒による減収や基部斑点米による品質低下など、大きな被害が発生。
- 発生地域は拡大する傾向が見られたことから、西部地区の市町村やJA等関係機関に働きかけて鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議を設立し、発生状況等の適期防除に必要な情報を広域的に共有。
- 適期防除がされた結果、令和5年産飼料用米に甚大な被害を受けた南部町の複数の農業法人においても、令和6年産は基準を上回る反収を確保。

## 具体的な成果

### 1 適期防除による目標反収の確保

- 白色粘着板による発生予察法に実用性があることを確認し、得られた調査結果から適期防除の実施が可能になった。
- 白色粘着板による発生予察を自ら行うよう生産者に働きかけたことで、イネカメムシの発生を早期に把握できたことも適期防除に繋がった。
- その結果、令和5年に被害が多発した南部町の3農業法人では、飼料用米において基準反収を上回る収量を確保することができた。

### 2 その他の成果

- すくい取り調査を広域で行ったことで、発生が拡大していることが確認できた。
- 防除作業受託業者を対策会議のメンバーに加えたことで、必要な量の農薬を確保することができ、欠品の懸念なく防除の実施を呼びかけたことで、防除面積は大幅に増加した。  
(R5:119ha⇒R6:171ha)



写真1 イネカメムシ成虫



図1 3農業法人の飼料用米反収 (kg)

## 普及指導員の活動

### <農家支援>

- 重点対象の南部町内3法人のほ場に白色粘着板を設置し、適期防除の実施支援。
- 農薬「キラップ」のイネカメムシに対する効果を現地2ほ場で確認。

### <広域活動>

- JA・行政等による鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議を設立し、関係機関の情報共有を実施（10回開催）。
- 西部地区において一斉カメムシすくい取り調査を2回実施し発生状況を把握。
- JA広報誌で、防除実施のための啓発情報を5月に作成し、周知。
- 西部水田経営者会議・西部地区集落営農法人連絡協議会の研修会でイネカメムシの発生予察と適期防除の必要性について説明（3回）。
- イネカメムシに対する防除効果をとりまとめ、生産者へSNS等で防除支援情報を提供。
- 無人ヘリ防除業者に同行し、適期防除作業の実態を把握。

## 普及指導員だからできたこと

- ・ 粘着板による発生予察を生産者と協働して実施したことで、イネカメムシ防除の必要性について納得され、適期防除に繋がった。
- ・ 鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議で関係機関の情報共有に努め、イネカメムシ被害対策について広域的に検討、実施することができた。

## 西部地区におけるイネカメムシ対策

活動期間：令和5年度～（継続中）

### 1. 取組の背景

近年の夏季の異常高温は、水稻の収量・品質だけではなく、従来、発生が無かった害虫発生にも影響を及ぼしている。高温年であった令和5年には県西部地区の南部町でイネカメムシ（写真1）が多発し、中生の主食用米や飼料用米を中心に不稔籾による減収や基部斑点米による品質低下がみられた。イネカメムシは南部町の周辺市町村に発生が拡大傾向にあることから、緊急・優先的な課題として対策を行う必要があった。

イネカメムシ対策として適期防除の実施が重要であると考え、生産者がイネカメムシ発生予察により防除の必要性を認識するよう心掛け、重点支援対象として南部町の3農業法人を選定し、飼料用米反収を基準反収以上確保することを目標とした。



写真1 イネカメムシ成虫

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) イネカメムシの発生確認と被害軽減

##### ア 関係機関の情報共有および生産者への情報提供

全国的にもイネカメムシの生態・防除対策について不明な点が多かったことから、生産者・関係機関への情報整理を行った。

##### (ア) 鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議の設立

J A、市町村、防除作業受託業者の情報共有を図るため、鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議（事務局：西部総合事務所農林局）の設立を働きかけ、関係機関が連携して活動できるよう体制を整備した。

##### (イ) SNSを活用した生産者への迅速な情報提供

鳥取県西部地域の大規模水稻生産者・農業法人で構成されている西部水田経営者会議の会員に対し、LINE を活用してイネカメムシに対する農薬防除効果の調査結果を情報提供した。防除情報は緊急性が求められるが、チラシ配布では情報が生産者まで届くのに時間がかかるため、LINE を活用することで即時に情報提供ができ、農薬防除の必要性についての呼びかけ、防除実施の徹底が図られた。

##### (ウ) 無人ヘリ防除の作業状況の把握

現地における防除時期の実態を把握するため、南部町で実施された無人ヘリ防除作業に同行したところ（写真2）、ほぼ適期に実施されていた。



写真2 無人ヘリ作業に同行

農業試験場が公開している出穂期予測を防除スケジュール決定の参考とするよう防除作業者に助言し、適期防除となるよう努めた。

(エ) 一斉すくい取り調査の実施

近年、実施されていなかった一斉すくい取り調査を復活し、病害虫防除所の調査を補完した。その結果は、病害虫防除所のホームページに掲載することで、広く情報提供を行った(写真3)。



写真3 すくい取り調査

(オ) 隣接する島根県東部農林振興センター安来農業部との情報交換

両県の発生状況等について情報交換を行った。

イ 防除技術の検討

(ア) 新たな発生予察法の検討

白色粘着板(写真4)による発生予察調査の実用性を検討するため、南部町内3農業法人のほ場に設置し、適期防除実施に活用できることを確認した。



写真4 白色粘着板

(イ) 生産者との協働による発生予察

発生予察調査の必要性を実感してもらうため、西部水田経営者会議の研修会で生産者と普及所の協働による発生予察の実施を提案したところ5名の応募があり、生産者自ら定期的に白色粘着板を交換して捕獲頭数を確認することで、発生状況を把握した。

(ウ) 代替農薬の効果確認

養蜂業への影響に配慮するため、非ネオニコチノイド系の「キラップ」の効果確認を行った。

### 3. 具体的な成果(詳細)

(1) 重点普及対象における成果

ア 白色粘着板調査を行った南部町内3農業法人はカメムシ防除の未実施により、令和5年産飼料用米に甚大な被害がみられたが、令和6年産は調査結果から適期に防除を実施したことでイネカメムシの発生は少なく、飼料用米で南部町の基準反収(532kg)を上回る反収を確保できた(図1)。



図1 3農業法人の飼料用米反収

令和6年は米価も高騰したことから、経営状況も改善した。

イ 生産者自ら予察調査を行うよう誘導したことで、イネカメムシの発生状況を1週間毎に把握でき、適期防除に繋がった。

ウ 効果確認を行った「キラップ」は防除効果が高かったことから、JA鳥取西部水稻栽培暦(日野特別栽培米)に採用された。

(2) 地域的なイネカメムシ対策の成果(鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議での情報共有の効果)

- ア 防除作業受託業者を対策会議のメンバーにくわえたことで、十分な量の農薬を確保することができ、欠品を懸念することなく防除の徹底を呼びかけることができ、防除面積は前年度よりも増加（119ha→171ha）した（図3）。
- イ 196 地点で一斉すくい取り調査等を実施したことにより西部地区におけるイネカメムシ発生分布を把握し、発生の拡大を認識することができた（図4）。また副次的に、若手の改良普及員、J A 営農指導員の調査技術の向上にも繋がった。
- ウ 令和5年に被害が大きかった南部町についてイネカメムシの被害は少なくなった。農業法人の聞き取りでもイネカメムシの不稔粒発生はみられず、収量を確保できた。

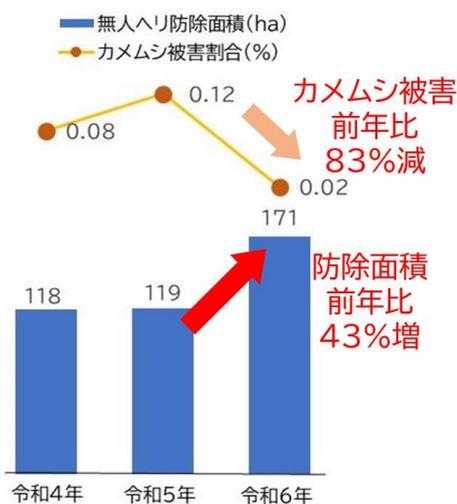


図2 南部町における防除面積とカメムシ被害割合

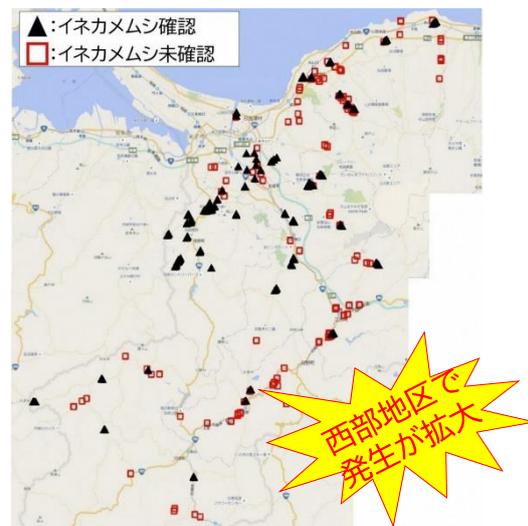


図4 西部地区でのイネカメムシ確認状況

#### 4. 農家等からの評価・コメント（南部町法人A、法人B）

- ・「防除の必要性について認識でき、適期防除に繋げることができた。」
- ・「イネカメムシがどういったものか認識でき、他のほ場でもイネカメムシを確認するようになり、防除に対する意識が高まった。」、「発生予察の結果から追加防除を検討し実施した。」

#### 5. 普及指導員のコメント

##### （西部農業改良普及所・普及主幹・香河良行）

- ・関係機関の情報共有を図り、イネカメムシの防除を広域的に行うことができた。
- ・関係機関がそれぞれ役割分担することで、生産現場へ効率よく指導を行うことができた。

#### 6. 現状・今後の展開等

- (1) 令和6年イネカメムシは鳥取県全域で発生が確認され、鳥取県西部地区だけの

問題ではなくなった。適期防除の効果を確認できたことから、出穂期を中心とした基幹防除の徹底を呼びかけていく。

- (2) 防除をしない小規模農家への周知徹底が課題である。
- (3) 防除時、イネカメムシが隣接するほ場に飛翔するところを目撃されていることから、地域でまとまって一斉防除をすることも効果的かと思われる。地域内での一斉防除の提案について呼びかけていきたい。
- (4) 令和6年は農薬費助成があったが、令和7年は助成はない。農薬費助成がないことで防除を止めることがないように令和6年同様、研修会、チラシ配布等で防除実施の呼びかけを行う。